

No.168

令和2年6月10日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

# Rising Sun



## HAPPY END じゃないけれど...



「優勝旗を全部とってくるぐらいのつもりで頑張れ！」  
総体前の激励会で、選手たちにはこう発破をかけるつもりでした。新人体育大会の成績や各競技団体(協会)主催の大会結果などから、多くの部活動で優勝もしくはそれに準じた成績が期待されていました。しかしながら、誰も予想していなかったコロナ禍によって、総体そのものが中止されてしまいました。「残念！」の一言では片づけられないなんともやりきれない思いです。言葉で表現できないほどのもやもや感が、私の心の中に充満しています。おそらくほとんど全ての顧問の先生がたも同じような思いを抱いていることでしょう。

一昨日部活動が再開されました。実際の活動は行われず、新型コロナウイルス感染拡大を予防するための、大会中止を含めた学校としての対応や今後の練習計画等の説明がなされていました。“最後の夏”に懸けていた3年生の心情や公式戦が行われないうまま引退を強いられる彼ら・彼女らの状況を思いながら、各顧問の先生の話の聞いていると、自然に熱いものがこみ上げてきてしまいました。

悔しい、悲しい、残念でならない等々、いろんな思いはあったでしょうが、生徒たちは一様に冷静でした。少なくとも私にはそう映りました。そんな生徒たちの姿を見て、「さすがは青陵中生！」と無意識のうちに呟いていました。

大方の生徒たちは、進学した先の高等学校等でなにがしかの部活動は続けるでしょうから、この悔しい思いや無念さをこれから先の活動にぶつけ、それらを晴らしてほしいと願うばかりです。

今後、各部活動で3年生とのお別れの仕方を考えていくことになろうかと思えます。最大の目標としていた総体が中止となってしまう、3年生にとっては決して **HAPPY END** とはいきませんが、**HAPPY** な雰囲気の中で **HAPPY** な気持ちになって引退できるような工夫、配慮をお願いします。

東海地方の平年は6月8日。昨年は6月7日でした。「そろそろあの時期かあ」と思いながら、この先1週間の天気予報を見てみると、

6/11	12	13	14	15	16	17

まさしく「あの時期」。そう**梅雨**です。

小学校に勤めていた頃、担任していた子どもたちに「梅の花は2月から3月にかけて咲くのに、なんでこの時期(6月頃の気候)を『梅雨』って言うの？」なんて問いかけていたことを思い出します。

雨が多いということは、必然的に湿度も高くなります。新型コロナウイルス感染症に熱中症、そしてこれからは食中毒にも警戒しなくてはなりません。ますます手洗いが大切になってきますね。

梅雨は鬱陶しい時期ですが、公園や庭先のそこかしこで咲く色鮮やかなアジサイを楽しめる時期でもあります。青陵中学校の駐車場でもみごとに花を咲かせていますよね。アジサイは土壌によって花色が異なります。土壌が酸性ならばブルー系になり、アルカリ性ならばピンク系の花を咲かせます。理科の実験で使った覚えのあるリトマス試験紙とは真逆の反応なんですね。青陵中の駐車場のアジサイはブルー系なので、土壌は酸性ということになります。

花色が頻繁に変わることから、花言葉は「移り気」「浮気」。どちらかといえばネガティブな言葉ですので、なんだかアジサイにはかわいそうな気もしてきます。色が変化する部分は花卉のように見えますが、実は「かく」で、中央の小さな花芯に見える部分が花だということを知っておくと、何かのときの役に立つかもしれない。

